

# 甲女川水系河川整備基本方針

平成 1 7 年 3 月

鹿 児 島 県

## 目 次

### 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

- (1) 河川及び流域の現況 . . . . . 1
- (2) 河川の総合的な保全と利用に関する事項 . . . . . 3
  - 1) 洪水, 高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項 . . . . . 3
  - 2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項  
並びに河川環境の整備と保全に関する事項 . . . . . 3
  - 3) 河川の維持管理に関する事項 . . . . . 3

### 2. 河川の整備の基本となるべき事項

- (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 . . . 4
- (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項 . . . . . 4
- (3) 主要な地点における計画高水位  
及び計画横断形に係る川幅に関する事項 . . . . . 5
- (4) 主要な地点における流水の正常な機能を  
維持するため必要な流量に関する事項 . . . . . 5

## 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

### (1) 河川及び流域の現況

甲女川こうめがわは、鹿児島県種子島たねがしまの北部に位置し、西之表市中央部の標高 203.1m の尾根にその源を發し、山間部を縫って途中支川今年川こんねんこうがわを合流しながら西之表市を貫流して西之表湾に注ぐ、流域面積 20.7km<sup>2</sup>、幹川流路延長 7.7km の二級河川である。

甲女川流域は、亜熱帯性の気候を示し、年間の降雨量は梅雨期、台風期に多く、洪水による被害もこの時期に集中している。流域の年平均降水量は約 2,500 mm、年平均気温は約 20℃である。

流域の地形は、中上流部のほとんどは丘陵地状の山地が占め、河口から中流域にかけて河川沿いの低平地が水田として利用されている。また、河口部は、岩石台地が形成され、種子島の行政、福祉、文教施設の集積する西之表市市街地が位置している。

流域の地質は、新生代更新世の増田層ならびに始新世の熊毛層による砂岩ならびに砂岩優勢互層によって基層が構成され、主として完新世の火山放出物によるローム層によって表層地質が構成される。

甲女川の治水・利水・自然環境及び河川の利用状況の概要は、以下に示すとおりである。

#### ① 治水の概要

本水系の治水事業は、昭和 43 年 9 月と平成 2 年 2 月に洪水被害を受けたことから局部改良事業により、かもめ橋から榕城橋ようじょうばしまでの河川改修が行われている。

河口部は、丘陵地で地盤が高く高潮に対しては安全な地形となっている。上流部については、まだ十分な治水安全度が確保されていない箇所も残され、洪水氾濫が生じていることから、治水安全度の向上を図ることが望まれている。

#### ② 利水の概要

甲女川の利水としては、西之表市の水道用水や農業用水として利用されている。甲女川流域においては、近年において渇水被害は生じておらず、取水に支障を生じたことはない。

#### ③ 自然環境及び河川利用状況

甲女川の下流域は、両岸に水田、畑が広がり、右岸側には一部スギ等の山林が生育している。河道内には護岸にヨシ、オギ群落が生息している。魚類では

ボラ、ハゼ等のほか、ミナミテナガエビやカニ類等の甲殻類が生息している。鳥類では、河口部にイソシギ、トビ、ツバメ等が生息し、セッカ、カワセミ、ホオジロ等が確認されている。なお、レッドデータブック掲載種（国、県ともに準絶滅危惧）のミサゴが確認されている。

中流域は、両岸にアラカシ等の常葉広葉樹林が帯状に生育し、蛇行区間にはアラカシ群落、ヒメムカシヨモギーオオアレチノギク群落が生育し、一部スギ・ヒノキが混在している。鳥類では、ヒヨドリ、ホオジロ、ヤブサメ、メジロ等が生息している。

上流域は、川幅も狭く、周辺の水田、畑、集落と隣接している。一部アラカシ群落と竹林の魚付き林が見られ、レッドデータブック掲載種（国：準絶滅危惧，県：分布特性上重要）のボウランが生育している。魚類では、オイカワ、ボウズハゼ、ヨシノボリが生息している。周辺域ではホオジロ、ヒヨドリ、スズメ、キジバト等の鳥類が生息している。

甲女川の河川水質については、環境基準の類型指定はされていない。榕城橋地点での水質測定の結果は、BOD（75%値）は0.5 mg/l程度であり、環境基準AA類型相当の良好な水質が保たれている。

## (2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

鹿児島県においては、21世紀新かごしま総合計画の基本構想の中に、「健やかで個性豊かなくらしと活力ある地域の創造」、「人と自然が共生する環境にやさしい社会の実現」を掲げ、安全で快適な生活環境の創造を目指している。

甲女川水系の整備においても、これらの基本理念に基づき、関連地域の社会・経済情勢の発展に即応するよう、また、『第4次西之表市長期振興計画』等の諸計画との整合を図りながら、河口から一環した計画のもとに河川の総合的な保全と利用を行っていくものとする。

### 1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

災害の発生の防止又は軽減については、流域内資産の状況・土地利用状況の動向を勘案し、30年に1回程度の降雨により発生する規模の洪水を安全に流下させることを目指すものとする。あわせて、整備途上における施設能力以上の洪水や計画規模を超過した洪水に対しても被害を最小限に止めるため、水防体制、情報連絡体制の整備等のソフト対策の充実に努める。

### 2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境の整備と保全に関する事項

河川水の利用及び流水の正常な機能の保全に関しては、甲女川水系においては、大規模な渇水被害は生じていないが、農業用水及び上水道に利用されており、今後も引き続き河川流量を把握し適正な水利用に努める。

河川環境の整備と保全に関しては、治水・利水面との調和を図り、流域に生息・生育する動植物に対して、多様な環境の保全・復元に努める。また、人々に潤いを与える良好な河川景観を保全するなど、河川環境の計画的な保全と整備を図り、地域住民が河川に興味を持ち河川に親しみを感じるような川づくりを進めるとともに、地域と一体となった河川環境整備のための協力体制づくりに努める。

### 3) 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理に関しては、洪水等による災害発生の防止または軽減、水利用及び流水の正常な機能の保全、河川環境の整備と保全の観点から、地域特性を踏まえ適切に行っていくものとする。

## 2. 河川の整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

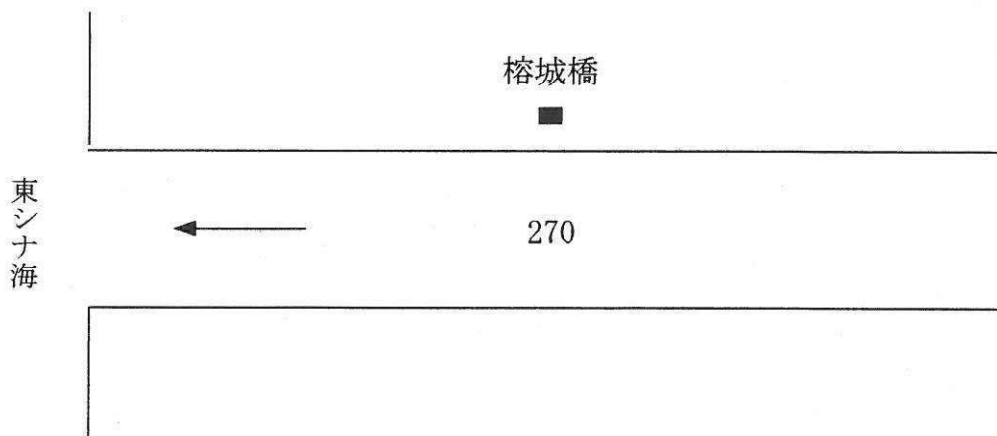
基本高水のピーク流量については、県内河川とのバランスを考慮して、30年に1回程度の降雨により発生する洪水を検討した結果、基準地点ようじょうばしの榕城橋地点において $270\text{m}^3/\text{s}$ とする。

基本高水のピーク流量等一覧表 (単位： $\text{m}^3/\text{s}$ )

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	河道への配分流量
甲女川	榕城橋	270	270

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

甲女川における計画高水流量は、榕城橋地点において $270\text{m}^3/\text{s}$ とする。



計画高水流量配分図

単位： $\text{m}^3/\text{s}$

■：基準地点

### (3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる概ねの川幅は、次のとおりである。

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 T. P. (m)	川幅 (m)	摘要
甲女川	榕城橋	3.35	+11.14 (測量法改正前)	26	基準地点

(注) T. P. : 東京湾中等潮位

### (4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するための必要な流量に関する事項

甲女川における既得水利としては、農業用水と水道用水がある。

近年において渇水被害は発生しておらず、利水、取水、生態系等に支障を生じたことはない。

今後も、流況等の河川状況、水利用の実態、動植物の生息・生育状況等の調査・検討を継続し、流水の正常な機能の維持に努めるものとする。





(参考図) 甲女川水系概要図